

オオヨシキリによるモンシロチョウの捕食

伊藤良昭¹・赤塚隆幸²

1. 〒501-6006 岐阜県羽島郡岐南町伏屋1-15

2. 〒493-8001 愛知県一宮市北方町北方字東土取114-1

捕食者としての鳥類と被捕食者としての昆虫の関係は、おおまかには知られているが、捕食される側の種など細部についての記録は少なく、蝶の捕食が記録される事例も同様に少ない(津吹・上田 2001)。著者らは1999年6月に、オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus* がモンシロチョウ *Pieris rapae* および不明のシジミチョウを巣内ヒナに給餌したところを観察した。必ずしも資料として十分なものではないが、鳥類による蝶の捕食例として報告する。

調査は愛知県一宮市の北部田園地帯(35°20'N, 136°48'E)で、1999年6月29日、7月1日、2日の3日間の午前中に行なった。オオヨシキリの繁殖しているアシ原は、休耕田と休耕地およびこれらに接して流れる用水の中にあり、田園地帯の中に孤立して分布していた。調査を行ったアシ原全体の大きさは約800m²で、田圃2面ほどの大きさであった。また、田園地帯の中にはところどころに耕作地があり、サトイモやネギ、トウモロコシ、キャベツなどの作物が作られていた。

筆者等は以下の2つの方法で1巣の育雛中であつたオオヨシキリの巣を観察し、親鳥が食物を運んだ回数と、運ばれてきた食物の種類をできる限り分析した。(1)巣の近くに小型のブラインドを張って巣を撮影し、同時に観察した食物を記録した。(2)巣の近くにビデオカメラ(Canon XL-1)を置き、撮影者を置かずに2日間に撮影した延べ3時間のビデオを分析して、食物を運んだ回数と食物の種類を特定した。なお、小さな昆虫類や、飛来から給餌までが早すぎて食物の種類が判別できなかったものは「不明」として記録した。

調査を行なった巣は、用水の中にあつたアシを利用して作られており、巣の下には水が流れていた。水面から巣までの高さは約1.5mであつた。巣から約1m離れてアシ原の縁があり、食物を持った親鳥はアシ原の茎から茎を伝いながら巣へ接近した。親鳥の性別は不明であつたが、雄はずっと囀り続けて巣に近寄っておらず、雌が1羽で育雛していると判断した。オオヨシキリは一夫多妻で、雄は1羽目の雌の雛には給餌するが、2羽目以降にはたいていは給餌しないので(Urano 1990)、一夫多妻の2羽目以降の雌を観察した可能性が高いと考えられた。

表1に、3日間の観察結果を記した。6月29日の記録では1.5時間のビデオ撮影のあいだに23回の食物が運ばれたが、少なくともモンシロチョウの成虫は運ばれなかった。7月1日の記録では1時間25分のあいだに16回の食物が運ばれ、そのうちモンシロチョウの成虫が2回

2001年10月9日 受理

キーワード: オオヨシキリ, 給餌, モンシロチョウ

表1. オオヨシキリがヒナに給餌した食物内容

Table 1. Food contents delivered to nestling of a Great Reed Warbler.

観察日 Date	観察時間 Time	チョウ Ad. butterfly	ガ Ad. moth	チョウ目幼虫 caterpillar	バッタ grasshopper	トンボ dragonfly	クモ spider	不明 unknown	合計 Total
1999.6.29	06:30-08:00	-	-	-	13	2	1	7	23
1999.7.1	09:30-10:55	2	2	7	1	-	-	4	16
1999.7.2	07:00-08:00	3	0	8	7	-	1	10	29
Total		5	2	15	21	2	2	21	68



図1. ヒナにモンシロチョウを与えるオオヨシキリ

Fig. 1. A parent Great Reed Warbler gives a Cabbage White Butterfly to nestlings.

(図1), 幼虫と思われるものが2回あった。7月2日には1時間のあいだに29回の食物が運ばれ, そのうちモンシロチョウの成虫が2回, 不明シジミチョウが1回運ばれた。チョウ目の幼虫の捕獲はそれらしいものはあったが, ビデオから識別することができなかった。なお, 7月2日の観察中にヒナの1羽が巣立ち, 観察後にも2羽が巣立った。巣内のヒナは4羽で, 残る1羽も翌日には巣の中にいなかった。

親はモンシロチョウの成虫や小型の蛾を, 翅をつけたままで幼虫の口の中に入れた。不明と判断したものの多くは, クモ, チョウ目の幼虫などの可能性が高く, チョウ類の成虫やトンボなどは含まれなかった。なお, チョウ以外の食物では, シオカラトンボ *Orthetrum albistylum speciosum* と不明のサナエトンボ類 *Gomphidae* が確認でき, バッタの多くはオンババッタ *Atractomorpha lata* と思われた。

アシ原の外から観察すると、オオヨシキリはアシ原を出て、多くは田圃の上を低く飛んで耕作地などへ食物を採取しに出掛けていた。食物の捕獲方法は1例の観察のみだが、サツマイモ耕作地の中に入ったオオヨシキリは地表で採食しており、距離があったので細部の観察はできなかったが、少なくともこの時の捕獲方法はフライキャッチではなかった。

オオヨシキリはモンシロチョウの成虫をどのように捕らえているのだろうか。オオヨシキリはモンシロチョウの成虫も運び、幼虫も運んでいることから、モンシロチョウの食草であるキャベツ畑でも採餌していると思われ、そこで成虫を捕らえていると思われる。ただし、成虫をフライキャッチしているか、休んでいるものを捕らえているかの判断はできなかった。しかし、3回の調査で一番多く運ばれていた食物はバッタで、この事から調査地のオオヨシキリが主に草の上を含めた地上で採食を多く行なっていることが予想された。また、バッタを巣に運ぶ際は何度かバッタが続けて運ばれ、モンシロチョウが運ばれる際も、成虫と幼虫を含めると、それらは連続して運ばれてきた。この事は、オオヨシキリが食物に対して探索像 (Tinbergen 1960) を形成し、同じ場所に続けて通うだろうことを暗示している。

引用文献

- Tinbergen, N. 1960. The natural control of insects in pinewoods I. Factors influencing the intensity of predation by song birds. *Archs. neerl. Zool.* 13: 265-343.
- 津吹卓・上田恵介. 2001. ビークマーク：蝶の翅につけられた嘴の跡. *Strix* 19: 129-140.
- Urano, E. 1990. Factors affecting the cost of polygynous breeding for female Great Reed Warblers *Acrocephalus arundinaceus*. *Ibis* 132: 584-594.

A Great Reed Warbler preying on butterflies

Yoshiaki Ito¹ & Takayuki Akatsuka²

1. 1-15 Fushiya, Ginan-machi, Hashima-gun, Gifu 501-6006, Japan

2. 114 Kitagata-cho, Kitagata, Ichinomiya, Aichi 493-8001, Japan

The food contents delivered to a nestling of a Great Reed Warbler *Acrocephalus arundinaceus* were observed from June 29 to July 2 in Aichi prefecture, central Japan. The parents mainly delivered grasshoppers (44.7%) and caterpillars (31.9%, $N=47$). We observed the warbler delivering adult butterflies 5 times (10.6%).

Key words: *Acrocephalus arundinaceus*, butterfly, food item, Great Reed Warbler